

伊奈城(豊川市伊奈町柳)(伊奈城趾公園)

徳川家の家紋「三葉葵の紋」発祥ゆかりの地といわれ、伊奈城主本多氏を偲ぶ場所で、市民の憩いの場、学習の場として親しまれています。

水草を採った池を「花ヶ池」と言い、「伊奈城跡」とともに憩いの公園として整備されています。

享禄二年（1529）岡崎城主・松平清康（徳川家康の祖父）が吉田城（豊橋市）を攻めた時、当時の伊奈城主・本多正忠は清康軍に参加し、先陣をきって東門を破り城を攻め落とした。正忠は清康を伊奈城に招いて凱旋の祝宴を開き、城内の花ヶ池にあった水葵の葉を敷いて酒肴を出したところ、清康は大そう喜び、「立葵は正忠の家の紋なり、此度の戦に、正忠最初に御方参て、勝軍しつ、吉例也、賜らんと仰ありて、これより御家紋とはなされたり。」（藩翰譜・新井白石編）

この記述を裏付けるように、岡崎市の随念寺に残されている清康の肖像画には、「立葵の紋」が描かれています。このように、本多家から松平家の家紋となった「立葵の紋」が、徳川家康の代に「三つ葉葵の紋」となったと伝えられています。

豊川市観光協会サイトによる

